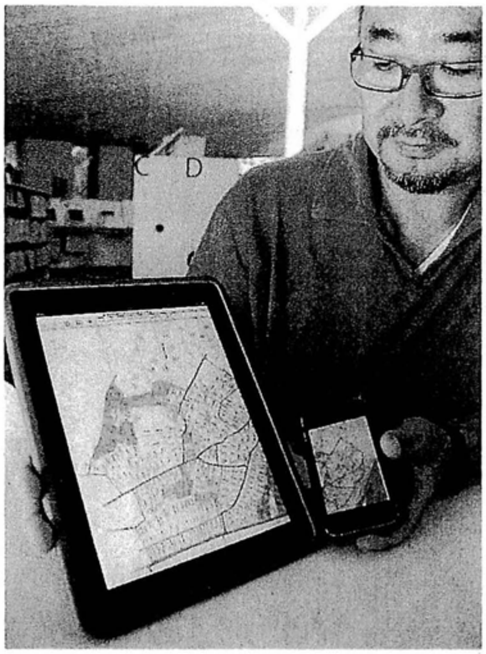
信濃毎日新聞
2010年(平成22年)7月8日(木曜日)　朝刊　33面

小布施の今昔 持ち歩こう

現代・江戸時代の地図から情報検索

アイフォーン・アイパッド向け 町立図書館 ソフト開発

小布施町立図書館「まちとしょテラソ」は、米アップル社の多機能携帯電話「ｉＰｈｏｎｅ（アイフォーン）」と、新型マルチメディア端末「ｉＰａｄ（アイパッド）」向けに、同町の地図から観光情報などを検索できるアプリケーション「小布施ちずぶらり」を開発した。画面に触れるだけで現代の地図と江戸時代の古地図を切り替えられるのが最大の特徴。情報検索だけでなく、町の移り変わりも楽しめる。


ｉＰａｄとｉＰｈｏｎｅで見ることができる「小布施ちずぶらり」の古地図

町内の民家で見つかった天明年間（18世紀後半）の古地図と、簡略化して手書き風にした現代の地図に加え、検索大手グーグルの「グーグルマップ」の計３種の地図が使える。地図の切り替えで、目的の地点が江戸時代にどのような場所だったかが分かる。

各地図には北斎館、岩松院といった観光施設、飲食店、オープンガーデンなど、約１００カ所の「情報ポイント」を設定。ポイントに触れると写真や観光情報が表示される。

昨年開館したまちとしょテラソは、古地図や古写真など町内の歴史資料を収集、デジタル化し、あらためて発信している。今回のアプリケーション開発はその一環。京都府のソフトウエア開発などの会社、国立情報学研究所（東京）と共同開発した。17日からアップル社のオンラインストア「アップストア」で無料でダウンロードできる。

花井裕一郎館長は「観光客は小布施の『ビフォーアフター』（今昔）を携えて町を巡ることで、新しい楽しみ方ができる。地元の小中学生には郷土学習の材料にもなる」と期待している。